

旭川市における観光の現状と 課題及び取組について

1

観光スポーツ交流部観光課

令和4年5月30日

- 1 旭川市の主な観光コンテンツについて
- 2 観光入込客数と宿泊延数について
- 3 旭川市における受入環境整備の取組について
- 4 通年型・滞在型観光推進に向けた取組について
- 5 新型コロナウイルス感染症に伴う影響について

観光地としての旭川市の特徴

- ・ 大雪山国立公園の恵みを受けた自然環境
- ・ 中核市レベルの都市機能と医療集積機能
- ・ 北海道の交通結節点、旭川空港によるアクセス利便性 → 新鮮かつ豊富な食材の集積
- ・ 高い知名度を誇る旭山動物園
- ・ 世界最高水準のパウダースノー

1 旭川市の主な観光コンテンツについて（スポット）



①旭山動物園
行動展示で躍世界に



②ラーメン村
老舗を中心に8店舗の旭川ラーメンを堪能



③科学館
様々な実験や体験、展示やプラネタリウムの観覧ができる



④上野ファーム
北海道ガーデンを提唱する上野砂由紀さんがオーナー



⑤カムイスキーリンクス
日本一の雪質とも称されるスキー場。パウダーから圧雪コースまで



⑥男山酒造り資料館
世界各国に輸出・酒樽を使った記念撮影や日本酒づくりの展示が人気

1 旭川市の主な観光コンテンツについて（体験）



①川下り・カヌー



②サイクリング



③乗馬



④染物

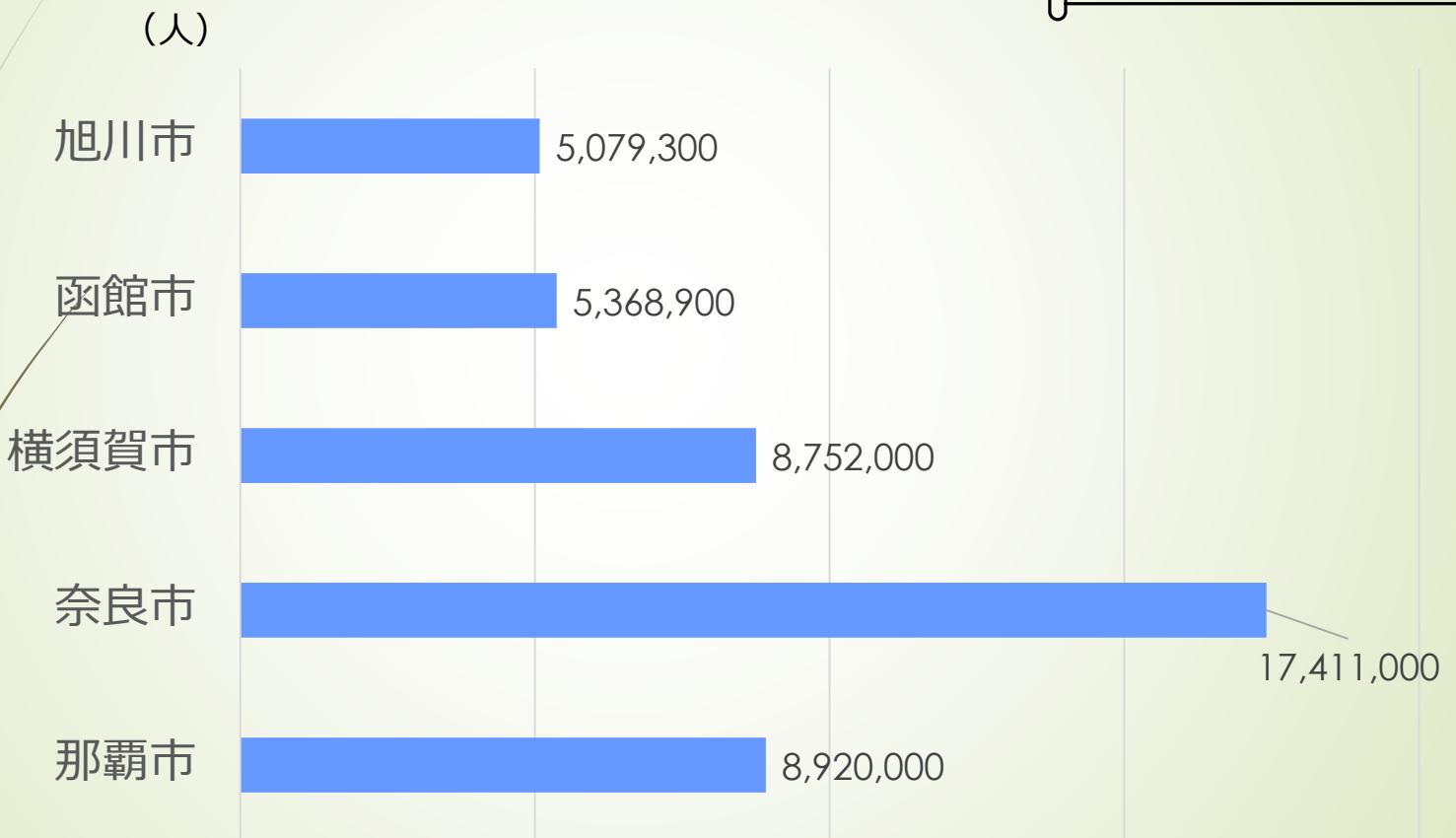


⑤収穫・酪農
果物狩り・チーズ作り



⑥スノーアクティビティ
スキー・スノーボード・スノーシュー

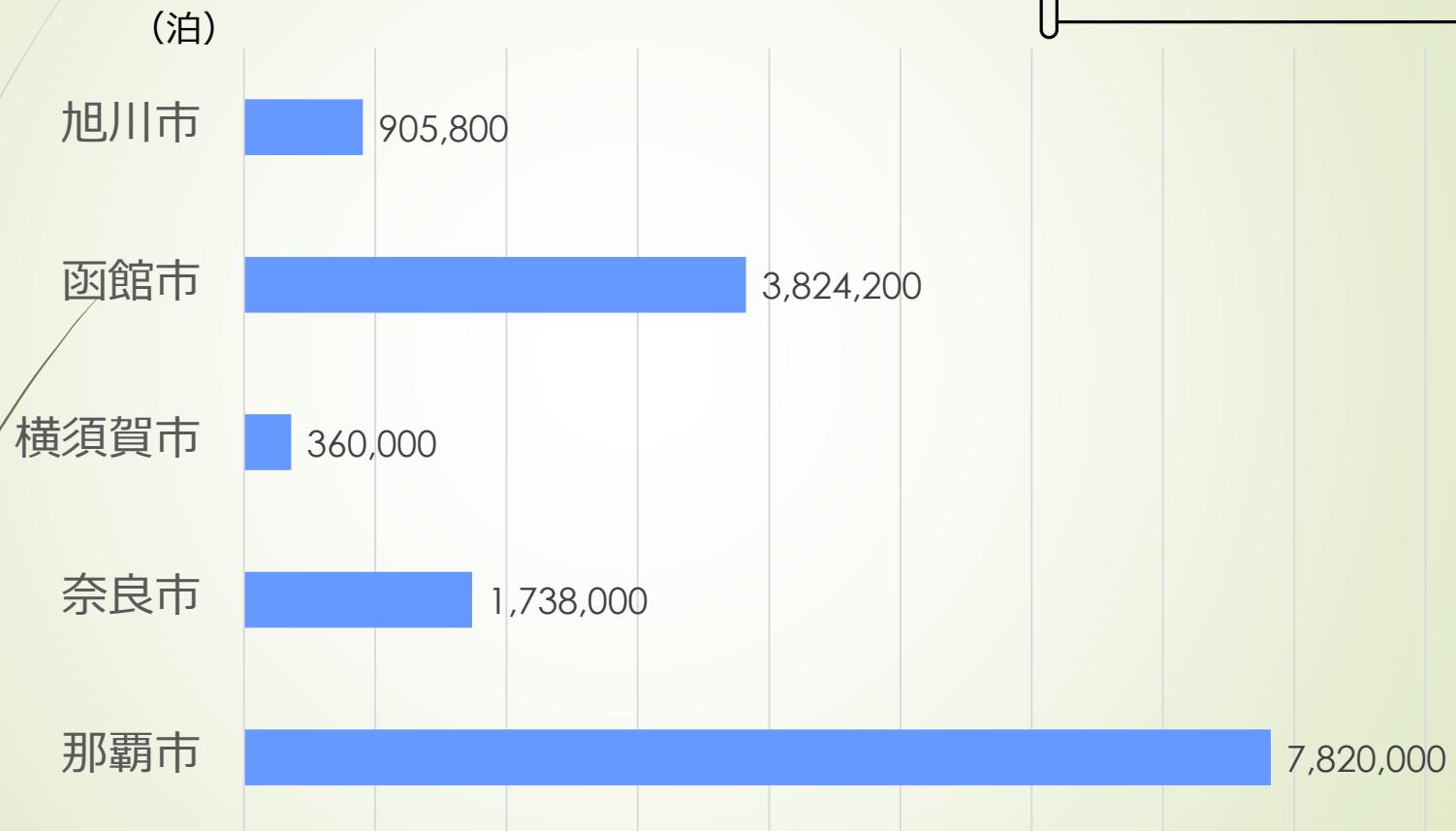
2 観光入込客数と宿泊延数について（R1年度）



【分析】

- 旭川市の観光入込客数は、函館市とほぼ横並び。奈良市の入込みが突出しているのは、修学旅行による市内見学が多いと推測される。

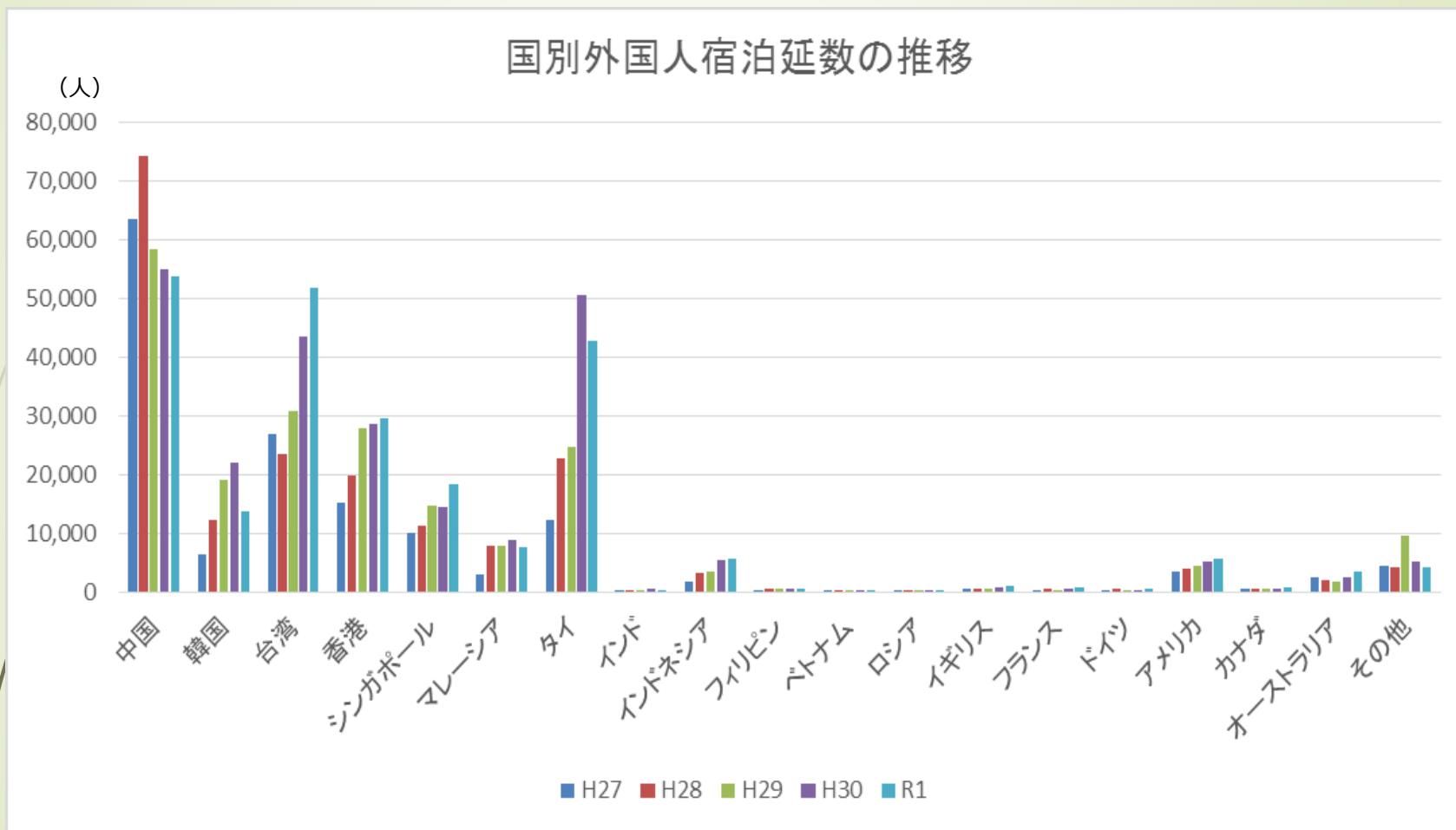
2 観光入込客数と宿泊延数について（R1年度）



【分析】

- ・旭川市の宿泊延数は、入込客数がほぼ同じ数値の函館市より圧倒的に少ないとから、函館市よりも通過型観光が多いと推測できる。
- ・那覇市は観光入込客数と宿泊延数の乖離が小さい。これは、県外へのエリア移動が車やバスでできないことから、通過型の観光が少ないと推測できる。

2 観光入込客数と宿泊延数について



【分析】

- ・移動距離が短く、雪への憧れが強い東アジアや東南アジア圏域を中心に、エアラインを含めた観光誘致のトッププロモーションなどを行ってきたことから、同圏域からの外国人宿泊延数が多い。
- ・一方で、移動距離が長い欧米豪圏域はアジア圏域ほど取り込めていないが、長期滞在による旅行消費額はアジア圏域よりも高いとされていることから、欧米人が好むアドベンチャートラベルなどを推進していく必要がある。

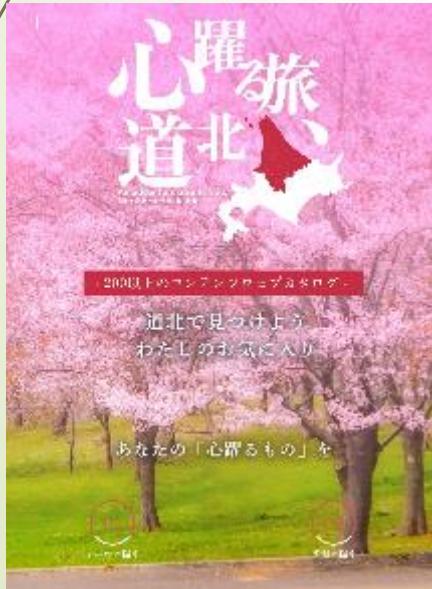
3 旭川市における受入環境整備の取組について

情報発信

【課題】団体旅行から個人旅行へ旅行形態がシフトする中、個々のニーズに対応するため情報発信に積極的に取り組み、観光客に対して本市観光の魅力を訴求していく必要がある。

道北観光ポータルサイトの構築

- ・「心躍る旅、道北」をテーマに、道北圏域の200以上以上の観光コンテンツを紹介するウェブカタログの制作



SNSによる効果的な情報発信

- ・youtubeやinstagramを活用し、本市や道北圏域の観光情報を紹介



3 旭川市における受入環境整備の取組について

案内・受け入れ対応

【課題】観光客の受入を推進するために、訪れやすい環境整備を進める必要がある。

観光案内所

- ・旭川観光物産情報センター（旭川駅直結）、フードテラス、道の駅、動物園に案内所を設置
- ・旭川駅の案内カウンターでは、英語、中国語に対応



Wi-Fiの設置

- ・中心市街地にフリーWi-Fiを設置
- ・各観光案内所でのフリーWi-Fi設置
- ・路線バス内のWi-Fi設置



多文化・多言語対応

- ・主要観光施設では多言語にて併記あり。
- ・パンフレットを多言語にて制作
- ・多様な食文化、食習慣を有する外国人への対応を行うため、対応店舗をまとめたマップ作製やセミナーの実施



3 旭川市における受入環境整備の取組について

二次交通対策

【課題】旭川駅や旭川空港に着いた後の移動手段が少ないため、二次交通の充実が必要

観光用バス乗車券

観光客が路線バスを活用しやすいよう、定額でのバス乗車券を販売

旭川駅隣のバス総合案内所にて販売しているため、旭川観光物産情報センターと連携し、国内外の観光客へ対応可



定額観光タクシー

旭川市は観光地が点在しているため、料金を気にせずにスムーズに定額で観光地を周遊することができる。

オススメのモデルコースにより料金を設定することで、観光客が使いやすくなっている。



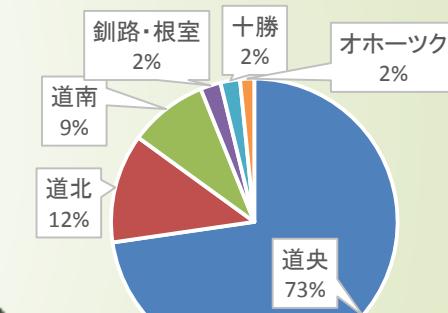
広域連携での観光の推進

【課題】北海道には様々な魅力を持つ観光資源が広域にわたり点在するため、多くの道外観光客は周遊型観光を行っているが、特に、観光客が道央圏に偏在する傾向にある。そのため、道北圏に誘客し、本市及び道北圏域での滞在に繋げる。

道内各自治体や広域観光団体等との連携推進体制の構築を進め、観光客の地方分散を促す広域連携での観光推進に取り組む必要がある。

旭川市が加盟する主な広域観光団体

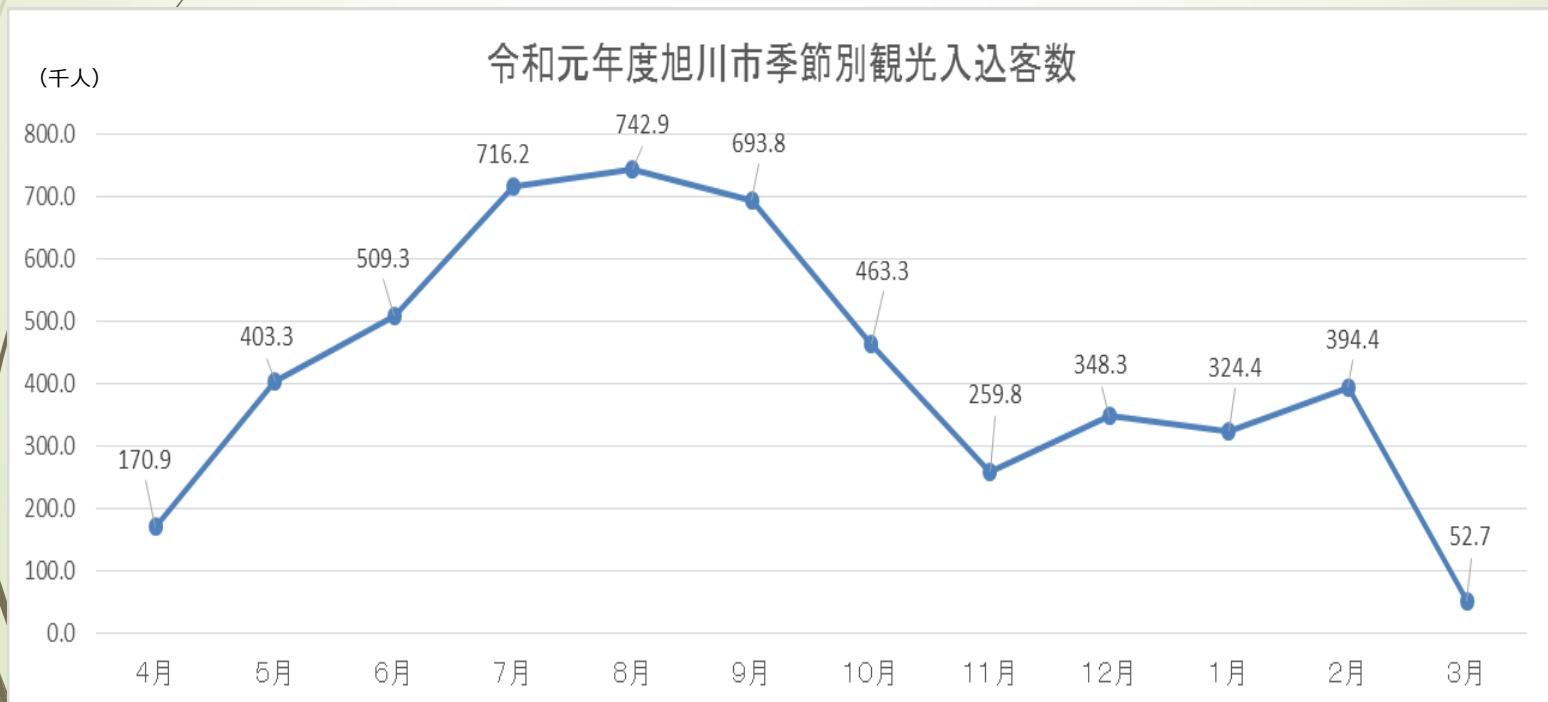
- ・あさひかわ観光誘致宣伝協議会 事務局：旭川市
- ・(一社)大雪カムイミンタラDMO
- ・上川地方観光連盟 事務局：(一社)旭川観光コンベンション協会
- ・道内中核都市連携協議会 事務局：札幌市



通年型・滞在型観光の推進

【課題】相対的に夏季よりも冬季の観光客が少ない傾向にあり、季節的な減少は物販、飲食等の消費縮小や宿泊施設の稼働率低下を招き、従業員の通年雇用を難しくするなどのマイナス影響につながるため、季節的偏在の解消が求められる。

冬季の受入体制の整備、冬季観光のPRを積極的に行い、通年型・滞在型の観光を推進する必要がある。



通年型・滞在型観光のコンテンツ造成

【課題】観光の季節的偏在を最小にし、滞在時間の延長を図るために、観光コンテンツ造成が拡大が求められる。

着地型旅行商品の開発・造成

旭川市内での滞在時間を延ばすためには、市内で各種体験をするなど、時間をかけて観光を楽しんでいただく必要がある。

そのため、旭川市内において自然を生かした体験や運動、農業や文化的な体験、イベントへの参加など、体験プログラムの造成に取り組んでいる。

将来的には、様々な産業分野との連携が可能なとなるような事業構築を目指す。



マウンテンシティリゾートの確立

【課題】都市機能と自然を最大限に活用し、1年を通して観光誘致に取り組み、圏域のブランド化を進め、いつ来ても、何度も楽しめる地域として、国内・国外に認識してもらう必要がある。



マウンテンシティリゾート構想の推進

上川1市7町圏域において、マウンテンシティリゾートの構築を進める（一社）大雪カムイミンタラD M Oが中心となり、夏季は大雪山の自然を活かした各種アクティビティ、冬季は圏域内のスキー場を軸とした集客など、大雪山の恵みを最大限に活かした通年を通した誘客の取組を行っている。

特に、道北最大級のスキー場である「カムイスキーリンクス」は、同D M Oが指定管理を行い、観光・スポーツ振興の観点から、集客活動を行っている。

「稼ぐ力」の醸成に向けた受入体制の整備

【課題】観光客が地域でお金を落とし、観光分野から様々な産業分野への経済波及効果に繋げることで、地域の「稼ぐ力」を醸成する。



アドベンチャートラベルの推進

旭川圏域は北海道最高峰の旭岳のある「大雪山国立公園」を有している。

雄大な自然・その自然の恩恵を受けた豊かな食、各種体験、アイヌ文化などを満喫する、「アドベンチャートラベル（AT）」を推進し、滞在型観光を促す。

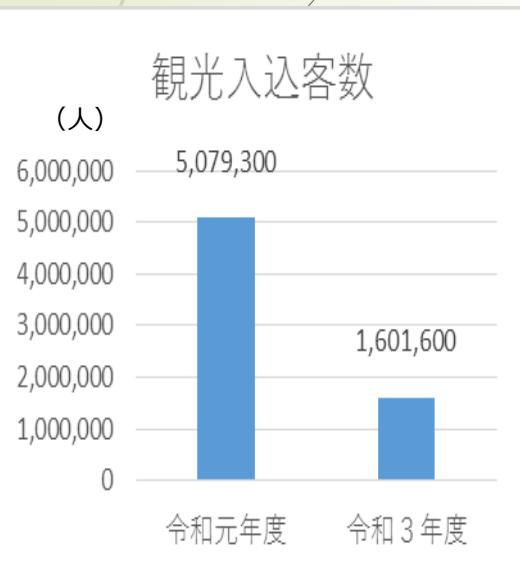
2023年に北海道で開催されるATWSの機会を活かし、アフターコロナにおいて、消費単価の高い欧米豪からの観光客の取り込みを狙う。

5 新型コロナウイルス感染症に伴う影響

令和元年度と令和3年度の観光入込客数等の比較について

観光 入込客数

令和元年度と
令和3年度の
比較
▲68.5%



宿泊 延数

令和元年度と
令和3年度の
比較
▲58.1%



外国人 宿泊延数

令和元年度と
令和3年度の
比較
▲99.6%



新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用

感染症の影響により落ち込んだ観光需要の回復に向けて、令和2年度から交付金を活用して各種取組を実施してきた。令和4年度は次の事業を実施する。

①旭川宿泊応援事業（あさっぴ一割）の実施（5月末で終了）

- ・旭川市民が宿泊する場合に、宿泊料金から5千円割り引いたプランを利用できる
- ・市民以外が宿泊する場合に、宿泊料金から3千円割り引いたプランを利用できる

②旅行商品造成等促進事業の実施

- ・市内宿泊を伴う募集型企画旅行を行う場合に、市内の飲食店や体験施設などで使える額面2,000円の電子クーポンを発行
- ・市内に20人以上の団体での宿泊を伴う募集型企画旅行を行うツアーに対して、ツアーバスの借上げ費用を1台あたり5万円助成

その他、上記②事業の拡大やインバウンドの回復に向けた各種事業を検討中